

Title	アクティブラーニングの実践例として読む『ハリー・ポッター』
Author(s)	鈴木, 幸
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.24No.2, 2015.1 :12-15
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5256
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

アクティブラーニングの実践例として読む 『ハリー・ポッター』

鈴木 幸

はじめに

アクティブラーニングという言葉が中央教育審議会で2012年に報告されてから2年、最近ではだいたい耳に慣れてきた言葉であるように思われる。アクティブラーニング、すなわち能動的な学びとは、教師による一方的な講義型の教育とは別に、学習者による能動的な参加が促される教育・学習方法である。アクティブラーニングを導入することによって、「認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る¹⁾」ことが目標とされている。そのためには、「ディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業²⁾」が求められている。しかし、具体的にはどのように実践されているのか、どのような効果が得られているのかといったことを図ることは難しい。

そこで本稿では、『ハリー・ポッター』シリーズに見られる学修風景から、アクティブラーニングの具体例と求められる要素について考察してみたい。物語に描写されている学びの様子からならば、アクティブラーニングの様子が容易にかつ効果的に示されている可能性があると考えからである。

『ハリー・ポッター』シリーズは、hogwarts魔法魔術学校という、魔法使いの子ども達が通う学校を舞台に物語が展開される児童文学である。主人公ハリーは友人達と共に、4つの寮に分かれた7年制の寄宿学校で魔法を学ぶ。1つの巻を通して1年が過ぎ、主人公たちが成長する姿を7年間の学校生活を通して描いた物語である。学校生活を中心に物語が展開されるため、授業風景や、ハリー達の学修の様子が多く描写されている。

『ハリー・ポッター』シリーズは、刊行当初は無名だったイギリスの女性作家J・K・ローリン

グによって書かれた物語で、第1巻『賢者の石』は1997年にイギリス・ブルームズベリー社から刊行された。瞬く間に世界的なベストセラーとなり、ネスレ・スマーティーズ賞やブリティッシュ・ブック・アウォーズ等、数々の文学賞を受賞した。最終巻にあたる第7巻は2007年に刊行され、物語は完結した。2001年から2011年には全シリーズが映画化され、今年2014年7月15日には、ユニヴァーサル・スタジオ・ジャパンに新しいアトラクション「ウィザーディング・ワールド・オブ・ハリー・ポッター」が開幕したほど、その人気はいまだ冷めないようである。そのアトラクションは、『ハリー・ポッター』シリーズの映画の世界を忠実に再現していて、その中心にそびえる建物こそ、ハリー達の通うhogwarts魔法魔術学校のあるhogwarts城である。

そこで、ハリー達の受ける授業において、どのようにアクティブラーニングが展開されているかを分析することから始めて、アクティブラーニングの理想についての考察を試みることにしたい。

1. 授業風景

hogwarts魔法魔術学校での授業は、「ただ杖を振っておかしなまじないを言うだけ³⁾」の授業ではない。魔法薬学、薬草学、魔法史、妖精の魔法(呪文学)、変身術、闇の魔術の防衛術、天文学、ホウキ飛行訓練、魔法生物飼育学といった必修授業に加え、古代ルーン文字学、占い学、マグル学、数占い学といった選択授業もある。そして、魔法史の授業以外は基本的に講義を黙って聞くだけの授業ではない。

一方的に聞くだけの授業ではないということは、hogwarts魔法魔術魔法学校で行われる授業はアクティブラーニングを実践していると考えられる。そして、その受け身の授業であるとされる魔法史の授業は、ゴーストの先生が「ものうげに一

本調子で講義をする⁴⁾のだが、「一番退屈な科目⁵⁾」であると表されている。ハリーの親友の1人である優等生のハーマイオニー以外の生徒は、まともに講義を受けることすらできない。

ほとんどクラス全員が催眠術にかかったようにぼーっとなり、時々、はっと我に返っては、名前とか年号とかのノートをとる間だけ目を覚まし、またすぐ眠りに落ちるのだった⁶⁾。

McDanielによれば、歴史という科目は特に講義を聞くだけの受け身の授業が中心となるといふ。そもそも生徒に講義をするということは、教師にとって最も普遍的な行為であるため、必然的行為であると考えられている。生徒に知識や情報を伝達し、教え導くことは、特に生徒が解けない問題に出くわした時には、多いに助けになるためである⁷⁾。とはいえ、このゴーストの先生のような一方的で聞くに堪えない授業では、授業が「死んでいる⁸⁾」ことも付け加えられている。

一方、魔法史以外のアクティブラーニングを実践していると考えられる授業では、例えば、魔法薬学の授業では、生徒各自がそれぞれの大鍋の中で薬を複雑に調合したり、変身術の授業では、物を他の何かに変身させてみたり、薬草学の授業では、奇妙な植物の植え替えをしたりと、生徒が実際に体験してみることで授業が成立する。

しかし、体験型の授業をしているからといって、技術が身に付いたり、授業に活気があるとはかぎらないことも描写されている。特に魔法薬学の授業では、それを教えるスネイプ教授がとりわけハリーにつらく当たることから、ハリーは授業に身が入らず、成績も合格すれすれである。Dickinsonによれば、スネイプ教授は受講生を配慮するというよりは、自信の教師としての権力を行使している節があることを指摘していることから⁹⁾、教師次第で学ぶ側のモチベーションが変わることが示唆されていると考えられる。授業は

異なるが、闇の魔術に対する防衛術の授業において、ハリーが優等生のハーマイオニーより成績が上回ったことを例に考えると、教師の力量がいかに問われるかが分かる。

「実は、そう[ハーマイオニーが常に成績優秀であること]じゃないの」ハーマイオニーが冷静に言った。「三年生のとき、あなたは私に勝ったわーあの年に初めてこの科目のことがよくわかった先生に習って、しかも初めて二人とも同じテストを受けたわ¹⁰⁾」

しかし、かれらの学びは、与えられた課題をこなしたり、進級や進路を定める際の試験に合格するためでもあるが、それ以上に、敵と戦い倒すためのものであるという明白な目的がある。そのためにかれらが取った行動は、授業外の自習である。

2. 授業外の学び

ハリーと友人達が、よみがえった闇の帝王ヴォルデモートとの戦いに備えなければならない必要に迫られる場面は、『不死鳥の騎士団』の中で描写されている。最も必要となる授業である闇の魔術に対する防衛術が、本を読むだけの受け身の授業になってしまったのである。

「あのねー『闇の魔術に対する防衛術』を自習するの」ハーマイオニーが言った。・・・「これは宿題よりずっと大切よ！・・・それはね、自分を鍛えるってことなのよ。ハリーが最初のアンブリッジの授業で言ったように、外の世界で待ち受けているものに対して準備をするのよ。それは、私たちが確実に自己防衛できるようにするということなの。・・・私も、本からだけ学ぶという段階は通り越してしまったと思うわ」ハーマイオニーが言った¹¹⁾。

ハーマイオニーという登場人物は、本や教員の教えから得た知識を丸のみにする人物として描かれている。そんな彼女が出した学習法の答えが、適切な教師による能動的な実地訓練を皆が受けることだったのである。

「私たちに必要なのは、先生よ。ちゃんとした先生。呪文の使い方を教えてくれて、間違ったら直してくれる先生…わからない？」ハーマイオニーが言った。「私、あなたのことを言っているのよ、ハリー¹²⁾」

前述の通り、ハリーはこの教科に対して優秀な成績をおさめ、かつ他の生徒にはできない魔法も使うことができる。それは、適切な先生からハリー自身が特訓を受けた経験があるからであるが、その甲斐あって、友人達の指導に当たることになる。その際にハリーが心がけたことは、説明や自身によるデモンストレーションだけではなく、他生徒の誤りを指摘し、成功するまで指導することだった。その結果、劣等生として描かれる傾向のあるネビルでさえも、成功をおさめる¹³⁾。

人に教えるという経験は、ハリーにとっても意味あることであると考えられる。アクティブラーニングを紹介する時にしばしば使われるものにラーニングピラミッド (National Training Laboratories 出典) があるが、その図によると、聞くだけ、読むだけよりも、さらには実際にやってみるということ、そして人に教えるということの方が、半年後に覚えている可能性が高いと言われている。すなわち、教える本人が分からないことを人に伝えれば、間違っただけを教えることや、誤りではすまされない結果に終わる可能性も生じるため、教えるという行為は、知識や技能が身に付いている、すなわち学修成果のフィードバックにも通じると言えるだろう。

おわりに

アクティブラーニングは汎用的能力を養うことを目的としているのであるならば、実際に身に付けた能力を試す機会があれば、より学習者の動機づけにもなるだろう。『ハリー・ポッター』シリーズの場合にはその目的が明確で、全ての学びが敵を倒すことに通じている。

ネビルが静かに言った。「何もかも、『例のあの人』と戦うためじゃなかったの？ 今度は、現実には何かができる初めてのチャンスなんだ—それとも、全部ただのゲームだったの？¹⁴⁾」

敵を倒すという設定は、現実世界においてはそのままあてはめることは難しい。しかし、ハリー自身が教師から学び、得た知識を人に教えることで、教える時に必要とされることと効果的なこと、そして、確実に自分に力がついたことが読みとれると考えれば、『ハリー・ポッター』はアクティブラーニングの参考書になるのではないだろうかと思われる。

引用文献

- 1) 中央教育審議会 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて (答申)」2012年8月28日、p. 35。
- 2) 同上、p. 9。
- 3) J. K. ローリング『ハリー・ポッターと賢者の石』 松岡佑子訳、静山社、1999年、p. 198。
- 4) 同上、p. 198。
- 5) J. K. ローリング『ハリー・ポッターと秘密の部屋』 松岡佑子訳、静山社、2000年、p. 222。
- 6) 同上、p. 222。
- 7) K. N. McDaniel, "Harry Potter and the Ghost Teacher: Resurrecting the Lost Art of Lecturing", *Society for History Education*, vol. 43, no. 2, 2010, p. 291.
- 8) *Ibid.*, p. 289.
- 9) R. Dickinson, "Harry Potter Pedagogy: What We Learn

about Teaching and Learning from J. K. Rowling”, *The Clearing House: A Journal of Education Strategies, Issues and Ideas*, vol. 79, issue 6, 2006, p. 241.

- 10) J. K. ローリング 『ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団』
松岡佑子訳、静山社、2004年、p. 514。
- 11) 同上、pp. 511-2。
- 12) 同上、p. 512。
- 13) Dickinson, op. cit., p. 242.
- 14) 『ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団』、前掲書、p.
529。

(すずき・みゆき 聖学院大学基礎総合教育部ポ
ストドクター)